

「主の十字架の血による贖い、救い」

ローマ3：25

堀田修一 25・4・13

今週は、2千年前の金曜日に主が私たちの罪の為に苦しみ十字架で死なれた苦しみと恵みを覚える受難週です。「神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです」ローマ3：25

I 聖書は、私たちの罪のための「主の十字架の身代わりの死」という表現だけではなく、「主の血による」贖い、宥め、救い、きよめを強調しています。「御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめます」I ヨハネ1：7。「神（神であるキリスト）がご自分の血をもって買い取られた（永遠の滅びから買い戻された＝贖われた）神の教会」使徒20：28

「キリストの血によって義（神の前に無罪、正しいとされ神との関係が回復する義）と認められた私たち」ローマ5：9。「キリストにあって、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています」エペソ1：7。「かつては遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者（偉大で聖く愛の神に近づく者）となりました」2：13

「雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分（主イエス）の血によって、ただ一度だけ聖所（神の臨在される聖なる所。罪ある人間が近づいたら死ぬ所）に入り、永遠の贖いを成し遂げられました」ヘブル9：12

「キリストが傷のないご自分を、とこしえの御霊によって神にお献げになったその血は、どれだけ私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者にすることでしょうか」9：14。

「私たちはイエスの血によって大胆に聖所（素晴らしい神の臨在）に入ることができます」10：19

聖書の中でも、これ以上重要な聖句はないと言えるほどの恵みを語っている。

「あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはならず、

傷もなく汚れもない（罪が全くない）子羊のようなキリストの、尊い血によったのです」

I ペテロ1：18、19※霊的勝利

の証し

「私たちを愛し、その血によって私たちを罪から解き放ち」黙示録1：6

「兄弟たちは、子羊の血と、自分たちの証しのことばのゆえに竜（サタン）に打ち勝った」12：11。※証し。

II なぜ、聖書は、「主の死」について語るだけではなく、「主の血」について語るのか？

1. 神の民の罪の贖い、償い、罪の赦しのための旧約聖書の動物の血のいけにえ（レビ記他）は、主の十字架の血を指し示していたからです（新約聖書は旧約聖書の成就です）→「イスラエルの会衆すべてが迷い出て…自らの罪が明らかになったときに、その集会の人々は罪のきよめのささげ物として若い雄牛を献げ、それを会見の天幕の前に連れて行く。会衆の長老たちは主の

前でその雄牛の頭に手を置き、主の前でその雄牛を屠る。油注がれた祭司は、その雄牛の血を会見の天幕に持って入る。祭司は指を血に浸し、主の前で、垂れ幕に向けてその血を七度振りまく。そして、その血を会見の天幕に持って入る。そして、その血を会見の天幕の中にある主の前の四隅の角に塗る。また、その血はすべて、会見の天幕の入り口にある全焼のささげ物の祭壇の上に流す。…こうして祭司は彼らのために（義である神の罪への正しい怒りへの）宥めを行う。そして彼らは赦される」レビ記4：13－20。神は、①大きな愛のお方だけではなく、②罪に対して正しく怒り、罪は罪として正しくさばく義のお方であるために、人々の数えきれない罪の償いのための血のいけにえなしには、罪の赦しはなかったのです。

2. 「さあ、羊（子羊。出12：5）をあなたがたの家族ごとに用意しなさい。そして過越しのいけにえを屠りなさい。ヒソプ（はっか科の多年生草本。花と葉に芳香（かぐわしいかおり）があり、副食物や薬用に用いられた）の束を一つ取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血を鴨居と二本の門柱に塗り付けなさい。…主はエジプトを打つために行き巡られる。しかし、鴨居と二本の門柱にある血を見たら、主はその戸口を過ぎ越して、滅ぼす者があなたがたの家に入って打つことのないようにされる」

出エジプト記12：21－23。このみことばを説き明かす新約聖書のみことばがあります→「私たちの過越しの子羊キリストは、すでに屠られたのです」I コリント5：7。旧約の時代、強いエジプトの支配から救い出されるために、滅びからの過越しのいけにえの血が、イスラエル人の家の鴨居と門柱に塗られた子羊の血は、主イエスの十字架の血を指し示していたのです。私たちが、主の十字架の血が、私の罪の赦しの為と信じる時に、ある意味で、私たちの心の鴨居と門柱に主の十字架の尊い血が塗られ、神は、その血を見て、私たちの罪を赦し、永遠の滅びが私たちから「過ぎ越される」のです！なんという恵みでしょう。※「十戒」という映画を初めて見た時の深い感動、救いの確信。新約時代、聖餐式に引き継がれる。

3. 「実に、肉のいのちは血の中にある。私は、祭壇の上であなたがたのたましいのために宥め（全く正しい義である神は、罪、悪に正しく怒られるので宥めが必要）を行うよう、これをあなたがたに与えた。いのちとして宥めを行うのは血である」レビ記17：11。聖書における「血」は、「死において捨てられたいのち」を示す。「血」は、「死において捨てられたいのち」を意味している。「血」は、罪なき主の死が、私たち罪人の身代わりに成し遂げられたという事実の最終的な証拠。罪人の人間に下るはずの神の正しい刑罰は、旧約時代は、人の身代わりに血を流すいけにえの動物の上に下り、新約時代は、罪人の全人類の身代わりに十字架で血を流し死なれたイエス様の上に神の正しい刑罰が下ったのです。

4. 義と愛に満ちた神が、いけにえが殺され血が流されることを命じられたご目的。

- ①その意図は、罪に対する神の正しい聖なる怒りを宥めることだった。罪、悪への正しい怒りは神の義。
- ②いけにえの血は、罪の償いを成し遂げ、罪人の罪過、罪への責めが帳消しにされる恵み。身代わりのいけにえの血により罪は帳消しにされる。今や私たちは宥められた神のもとに大胆に近づくことが出来る。
- ③いけにえの血は、罪人の身代わりとされた犠牲が、罪人の代理に受けるべき罰を受ける事だった。旧約時代、子羊を取り、罪人の両手をその上に置き、象徴的に自分のもろもろの罪をその動物に負わせ、そのいけにえは代理に苦しみを受け、代理に罰を負った。主イエスは、私たち

の身代わりに罪を負われた。

- ④「すべてのものは血によってきよめられます。血を流すことがなければ、罪の赦しはありません」ヘブル 9：22

Ⅲ 神の大きな恵みへの応答。

1. 主の十字架の血により、私たちが神の赦しを受け、神の恩寵と交わりの中に回復されることになった恵みを心から感謝したい。神との交わりは最高の幸せ。この受難週も。
2. 神が、主の十字架の血をご覧になり、主を信じる私たちの数えきれない罪を赦し続けておられる愛と恵みに驚き感謝し、私たちも、私たちにとって愛しにくい人を赦せるように祈りたい。人を赦すことは簡単ではない。しかし「それは人にはできないことですが、神にはどんなことでもできます」マタイ 19：26。「私たちの負い目（罪）をお赦してください。私たちも、私たちに負い目（罪）のある人たちを赦します（赦せるように愛を下さい。自分がこれまで、どれほど神に赦され続けて来たかを、その奇跡的な恵みを常に覚えさせてください）」6：12。「自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい」ローマ 12：19。赦しと法的裁判をすることは矛盾しない。人が正しい裁判で反省することは益。主は「ののしられても、ののしり返さず、…正しくさばかれる方にお任せになった」Ⅰペテロ 2：23。証し。